



## 私たちの歩み (8)

顧問・理事 酒井滋子

2004年3月1日にエルシティオ、ハートツリーハウス、麦の郷の職員、メンバー(エルシティオ)と知事(当時は木村氏)と県関係者とが知事室で「ひきこもり」について、話し合い、公的な支援の必要を申し入れました。県は支援に向けての作業を続け、2004年の新年度から「ひきこもり者社会参加支援センター」運営事業補助制度が全国自治体で初めて成立、エルシティオ、ハートツリーに適応されるという画期的なことが始まりです。ひきこもりの居場所づくりに一緒に働いてきた方々と一緒に、「不登校」(学齢期の小中学生)の居場所をどうするかをいろいろ話しました。ひきこもりの青年たちはこの人たちのエネルギーに圧倒されてしまうから、別に利用できるものの方がいいのではないかという結論になり、その後、市のプールにある建物の2階を借りて、「リーフ」を発足させました。

<居場所の引っ越し>  
末広の居場所の台所は小家族の典型的なつくりでした。そこに和遊協の寄付金で購入した大型のオープン置いて、お菓子づくりをして「あおい通りの朝市」などで販売をしていました。ハートの行事としてメンバーたちの食事会、エルシティオとの交流会の食事づくりなどもしました。  
保健所の方から、日常的に使用されていた手洗いが、台所から離れていることを指摘はされていましたが、メンバーさんも増えてくる中で、居場所の中でも、一人でゆっくり出来る場所が欲しい、各々の興味での小さいグループで何かしたい、スタッフにゆっくり話を聞いてほしい、などなどの、多様なメンバーの要望に対応する必要もあって、もう少し広い空間が必要やなど、引っ越しすることを本格的に考え始めました。

次号へ続く

## あづまプラッツ活動



↑ 那智勝浦町カフェへ  
お菓子納品



← 新宮市タウンガーデン  
イベントへの出店



↓ 調理実習後の昼食会



## あづまプラッツ 2017年の歩み



施設長 芝先 隆

新宮市木ノ川の社会参加支援センター「あづまプラッツ」にはスタッフ2名が常駐しています。利用者さんの利用時間は13時～17時です。利用者さんが来やすい居場所、行きたくない居場所になるよう努めています。

活動内容は、通所している利用者の皆さんとのミーティングで決めています。2017年の主な活動は以下のとおりです。

4月、新宮市にあるタウンガーデンでのイベントに参加。利用者さんたちで育てたポット苗・あづまプラッツ厨房で作ったお菓子・農家からいただいた三宝柑で作ったジャム等を並べました。お菓子が思いのほか好評だったので近隣のカフェに試食していただいたところ那智勝浦町の有名カフェからコンスタントに注文が入るようになってきました。

7月、串本潮岬少年自然の家での合宿参加。一泊二日の研修合宿で水泳やソフトバレーボールそしてパーベキューなどを通して普段は顔を合わせることの少ない圏域外の同世代と楽しく交流出来ました。

9月、オクラ収穫作業の手伝い。この経験が農作業への関心につながったと思います。

11月、高菜栽培。あづまプラッツ支援者の農業をされている市議員さんから新宮市の漬物業者が大量に高菜を必要としているので栽培してみればとの提案があり、利用者さんと協議の結果トライすることになりました。昨年未時点では順調に生育しており収穫が楽しみです。

以上、主なイベント等のほかに、月一回のペースで社会体験としてハイキング・釣り・ヨガ体験・茶道体験などへの参加。同じく月一回の調理実習と昼食会では、人と一緒に食事することが苦手だった方たちも楽しんで参加しています。また、お菓子作りは週一回程度で実施しております。予定のない日は卓球やパソコン、読書等興味のある事を行っています。

私は、昨年の12月富山市で開催された若者・ひきこもり共同実践交流会に参加してきました。全体シンポジウムで感じたのは、ひきこもりなどの社会的孤立において、大都市と地方、また地方中核都市とそうでない地方でそれぞれが持つ課題があるということでした。その後の分科会「論ずるより作って感じる居場所」では、居場所にもいろんな形態また運営方法があること。グループ討議では、ひきこもりのお子さんがいるお母さん二人、居場所に通所している若者と同席でした。いつでも受け入れてもらいたい・やってみたくが主体的にできる場所・自分達から発信する必要性・年代や性別に関係なく交流できる場所など今後の運営の参考となる意見がありました。

あづまプラッツ 2018年の目標は、東牟婁圏内にひきこもり者社会参加支援センターあづまプラッツのより一層の広報と、誰もが来やすいいろんな事が出来る居場所づくりをしていきたいと思っています。